

令和3年度第2回田原本町まち・ひと・しごと創生総合戦略推進委員会 議事要旨

開催日時 令和3年9月6日（月） 10時40分～

場所 田原本町役場3階 301・302会議室

出席者 公立大学法人奈良県立大学地域創造学部教授 小松原 尚
（敬称略） 一般社団法人田原本まちづくり観光振興機構理事 服部 誠
田原本町自治連合会会長 山田 国嗣
株式会社ヨシケイライブラリー営業課長 山岡 洋之
田原本町PTA連合会会長 若林 宏文
株式会社南都銀行田原本支店支店長 秋山 利元（代理：次長 飯田 浩憲）
奈良中央信用金庫専務理事 谷野 守弘
田原本町立田原本小学校校長 大村 泰弘
奈良県産業振興総合センター所長 大西 勇

事務局 副町長 教育長 町長公室長 総務部長 住民福祉部長 産業建設部長
上下水道部長 教育部長 町長公室参事 町長公室・産業建設部参事
産業建設部参事 企画財政課長 企画財政課長補佐 企画財政課政策企画係長

1. あいさつ

（事務局）

開催にあたり小松原委員長よりご挨拶いただく。

（小松原委員長）

人の流れ・動きは非常に重要である。コロナで大変だが人の動きを変えていかなければいけない。それがこれからの地方創生に繋がってくるのではないか。そのためのアイデア、検証、それがこの会であると考えている。本日の議題は、地方創生推進交付金事業・企業版ふるさと納税・総合戦略の3つの効果検証、それから総合計画後期基本計画及び第2次総合戦略骨子案となっている。新しい人の流れを作り出すという意味からも皆さんの各スペシャリティにおいてご意見賜りたい。宜しく願います。

（事務局）

出席委員9名で、田原本町まち・ひと・しごと創生総合戦略推進委員会規則第5条第2項により、委員会は成立。

推進委員のうち、第1回で紹介がまだできていなかった委員を紹介
欠席委員は7名

－資料の確認－

議事にうつる。議長を小松原委員長にお願いします。

2. 議題

(小松原委員長)

議案第1号、「地方創生推進交付金事業の効果検証について」事務局から説明を
求める。

(事務局)

資料1：2020年度 地方創生推進交付金事業検証シートについて説明

(小松原委員長)

何か意見、質問はあるか。

(山岡委員)

3ページのKPI検証について、唐古・鍵遺跡の入館目標値が2021年度は74,000、
ミュージアムは16,000となっている。コロナ禍の観光誘致が妨げられている状況
下、この数値でいくつもりか。外的要因があるのなら下げてもよいと考える。

(小松原委員長)

数値問題についていかがか。

(教育部長)

公園やミュージアムの年間来場者数については、コロナ禍ではあるがこの数値を
挙げている。積極的に広報活動を行い周知したいと思っている。

(山岡委員)

考え方の違いがある。目標値設定が先決である。

(小松原委員長)

変更するにはそれなりの理由を明確にしなくてはいけない。そういったことを含めての回答と捉えた。

(若林委員)

唐古・鍵考古学ミュージアムの年間入場者数は目標値が年々1,000人ずつ増えているが、増やすための方策は何か考えているのか。例えば自身の商売の場合、取り扱い商品も変えていかないと売上げが減少していく傾向がある。注目してもらえば、新しいものを取り入れていくべきだと思う。この唐古・鍵ミュージアムに関して何か戦略があるのか。

(教育部長)

唐古・鍵ミュージアムについては、来場者は1,000人ずつ増加見込みである。ミュージアムの常設展はあまり変わらないが、それを補足する企画展を開催しており、そちらで増加を見込んでいる。

(若林委員)

来場された方に再度来場いただくための用意もしておかないといけない。今まで展示されていたものでも違った解釈で捉えられるようなものを日頃から発掘していくべきである。

(小松原委員長)

リピーター確保のためにサービスというのは必要不可欠である。

(事務局)

山岡委員より目標値の設定について意見いただいたが、こちらは国の地方創生推進交付金を活用した事業となっている。年度当初の2018年度に3～4か年で計画を出しており、基本的には当初の目標値をそのまま掲げている。上げるのは承諾をいただけるが下げるとなると特別な理由がない限り難しいため、計画としてはこのままの目標値でいきたいと考えている。

(小松原委員長)

特別な理由がある時のみ下げられるというのは一般的な認識かと思うが、それについて事務局はどう考えているのか。

(事務局)

当初、コロナ禍における人流そのものが減少しているということで国とも相談したが、全国一律の状況でそれだけでは難しいとのことだった。

(小松原委員長)

その他にいかがだろうか。

(山田委員)

日本書紀編纂 1300 年のイベント費用が国から上がっているが、現在、県指定の多神社の社が 4 基あり、その改修工事がある。1 基の改修に 1 億円かかり、総計 4 億円かかる。その中の 60%が県の補助金で、町からは 1,200 万円。向こう 6 年間で毎年 200 万円ずつ合計 1,200 万円を寄附金で援助してもらおう。残りは神社の預金を崩し充てられ、残り 9,000 万円が氏子に割り当てられる。そこで町の補助金をもう少し上乗せできないか。県の指定ということで 6 割は県の補助金だが、それ以外は町と氏子でまかなうとなると、1 軒あたり 56,000 円程度寄附しないといけない。そういったことを勘案しても向こう 6 か年で町負担が 1,200 万円というのは金額的にいかななものか。

(小松原委員長)

日本書紀編纂 1300 年にあわせたイベント広告費用として多神社の改修費用を何とかできないかということである。

(山田委員)

そういった名目で資金が出ないか。神社建て替えの時期であるのに併せて、本町の名前を広めるための観光資源でもあるためもう少し上乗せしてほしい。

(教育部長)

補助金に関しては国、県、町の率がある。それに基づいて算出した金額になっている。そこを増やすことについては検討が必要である。今すぐ答えは出せない。

(山田委員)

検討の余地があるなら願いたい。

(小松原委員長)

その他にどうか。

(服部委員)

観光振興事業についてだが、コロナ禍で中止が相次いでいるなかで「たわらもと塾」という朝日カルチャーセンターの講座が全国的に行われている。これを上手く使えないか、今後もこういったことを続けていくことで、日本中に田原本町がどういうところかを広めていきたいと思い、(チラシを)皆さんに配らせていただいた。費用は高くつくが、田原本町内だけでなく様々なところで朝日カルチャーは人気があるそうである。今後こういう形の事業をやっていたらいいと考えている。

流鏝馬事業については、今年10月か11月くらいに第1回流鏝馬実行委員会を開催し来年度は開催したい。その際には皆さんに協力いただきたい。とにかくできるイベントが少ないのでなんとしても開催したい。昨日も田原本町内でコロナ感染者が7名でている。コロナが収まらないと事業としては開催できず中止にはなったが、様々な形で考えているので協力願いたい。

(小松原委員長)

協力要請。今の意見に関連して、インバウンドが事業に入っていた。こちらについてもなかなか計画が決まらないと思う。インバウンド関連は今後どのように展開していくのか説明を求める。

(町長公室・産業建設部参事)

インバウンドについては、コロナ禍・アフターコロナの世界においても積極的に盛り込むのは現状難しい。来年度の流鏝馬は是非実施したいと思っているが、この目標達成は大変厳しい状況だと考えている。昨年度、観光の基本計画を作成し、服部委員に理事をお願いして「田原本まちづくり観光振興機構」を設立した。これを中核とし町の観光を盛り上げていきたいと思っている。やはりインバウンドというよりはマイクロツーリズム的に、まずは奈良県内もしくは近隣の都道府県の観光客の呼び込みが目標であると考えている。先程服部委員からご紹介いただいた「たわらもと塾」についてもターゲットとしては、マイクロツーリズム的な要素が大きいのと考えている。ただ地方創生事業としては当初インバウンドを目標として掲げているので、インバウンドを呼び込むきっかけになる何らかの工夫はしていかないといけない。

(小松原委員長)

人流そのものに注目するだけでなく、SNSやネット媒体を使った情報発信というバーチャルな世界でのインバウンドの招致も今後課題になると考えるが、その点についていかがだろうか。

(町長公室・産業建設部参事)

デジタルの世界でのインバウンドという観点では、例えば流鏝馬の場合、流鏝馬の風景をネット配信するなどになる。現地に来た方との差別化という意味で、そこでインターネット配信をしてマネタイズしていく形になるかと思う。それを実証する実行委員の方との相談になると思うが意見として承りたい。

(小松原委員長)

立派な写真展を開催したと報告があった。画像資料も充実してきてコンテンツがかなりあるのではないかと考える。
その他にいかがか。

(飯田氏)

7ページの新組織を設置するウェブサイト年間アクセス数の部分で目標値が600、900、1,200となっているなか、2020年度の実績が48,000とかなり多くなっている。どのような工夫があってこれ程の大きな成果を得たのか。
コロナ禍で自分自身を含め多くの方に旅行に行きたい気持ちが溜まっている。
今、アピールしてコロナが収まった時に行ってみたいと思わせるような戦略が必要である。町外の方にそう思っただけのような企画等を進めるのが、気持ちが高まっているなかで効果的だと思うが、そのあたりで何か考えているのか。

(町長公室・産業建設部参事)

新組織のウェブサイト年間アクセス数の件については、資料7ページにあるように、「町内の見どころや飲食店、イベント情報などをわかりやすく表示し、発信頻度を高めたことで、半年間で48,000件ものアクセス数を得た」と考えている。具体的にグーグル広告を打つなど予算を費やして何らかをしたということではなく、発信頻度を高めたことにより関心を持った方に見ていただけたと考えている。
現在における観光のPRについては「たわらもと塾」などの取り組みを進めている一方で、現在はグーグル広告も打っておりグーグル検索した時に関連のあるユーザーに対して広告が表示されるような枠組みを利用している。

(小松原委員長)

良質なバーチャルの構築が次の一手になるのではないか。町としては更にバージョンアップさせたいということ。
その他はいかがか。それでは次の議案にうつる。

議案第2号、「企業版ふるさと納税の効果検証について」事務局から説明を求める。

(事務局)

資料2：地方創生応援税制（企業版ふるさと納税）に係る事業検証について説明

(小松原委員長)

意見、質問を求める。

(山田委員)

流鏝馬はコロナで中止になったが、これは毎年の継続事業ということか。

(町長公室・産業建設部参事)

コロナで令和2年度・今年度は中止という判断をした。来年度、地方創生推進交付金上は最終年度となっている。そして来年度、国の交付金を利用して実施した結果としてその先は検討していかないといけないと思っている。国の交付金における状況のため、継続か否かはまだ判断していない。

(服部委員)

山田委員の質問に対して、事務局としては2年に1回の開催としているのは費用がかかるためである。こういった時期なので、1年目は流鏝馬を開催し2年目は写真を一般公募して写真展を開催する。現在、1年おきの開催が構想として挙がっている。

(小松原委員長)

メリハリをつけていきたいということだ。

(若林委員)

ヘルスケアプロジェクトについて歩数1,500歩の増加がみられたとのことだが、歩数が増加したところで被験者はそれに対しどのような反応だったのか。これだけだと面白くないのではないかと思った。以前、テレビで片目を閉じて何秒間立っていられるかというのが何らかの訓練をすることでタイムが伸びた、バランスが良くなって歩く距離が伸びたなどの発信をしていた。このように、1,500歩の増加以外に被験者が楽しめる、やってよかったと思えるような何かを考えてもらいたい。

(住民福祉部長)

歩数計については、活動量計といって首からぶら下げるタイプのを皆さんに配っている。それによって歩数がカウントされている。また、自身の順位を確認できるデジタルサイネージという大きなモニターが、主だった町の施設に設置してある。自身でもネット等で見ることができ、それが非常に好評である。役場にも1台設置しているのだが、決まった方が毎日確認に来ている。その日の歩

数がカウントされ、自分が町内で何位かはっきりとわかるようになっている。特に男性は1日2万歩など歩かれ順位を確認されている方もいる。そのモチベーションは高くなっていると考えられる。個人で登録する以外にグループで登録してグループ対抗戦をする企画もある。月間でグループが何位だったかということが、田原本町内だけでなく4つ飛び地で連携しているなかでも分かり、歩数に関しては歩数を上げる以外のモチベーションを上げる要素もある。順位付けすることでモチベーションが継続されていると考えられる。

(小松原委員長)

モチベーションは大事だ。リアルタイムで見える化していくことで工夫していることがわかったと思う。

他にないか。次の議案にうつる。

議案第3号、「総合戦略の進捗状況について」事務局から説明を求める。

(事務局)

資料3：まち・ひと・しごと創生総合戦略の進捗状況について説明

(小松原委員長)

意見、質問を求める。

(山岡委員)

5ページに掲載されている若い世代の活発な交流の促進ということで新規就農者数があるが、これは専業農家の人数なのか。

(産業建設部長)

新規就農者に関しては専業農家としての位置付けで就農されている。

(山岡委員)

(新規就農者は) どのくらいの年収があるのか。

(産業建設部長)

将来的には独立して就農していくわけだが、初期投資がかかることから、そういう制度を利用して就農に対して国から組織援助していくという流れである。

(小松原委員長)

その他にいかがか。なければ次の議案にうつる。

議案第4号、「第4次総合計画前期基本計画の令和2年度進捗状況について」事務局から説明を求める。

(事務局)

資料4：第4次総合計画前期基本計画の進捗状況（令和2年度実績）

資料4別紙：第4次総合計画指標達成状況（令和2年度実績）について説明

(小松原委員長)

意見、質問を求める。コロナ対応が今後の課題となると説明があった。

(若林委員)

これと直接関係ないが、最近、テニスで全国大会にいく年配の方と話す機会があった。田原本町では何もしてくれないとのこと。他の町は全国大会に出場する人に対して、1～2万円の応援金を出す。広陵町でも5,000円の応援金を出してくれるとのことだった。余裕のある大人には必要ないが、小中学生は全国大会に行くのに保護者が実費で負担しなければならない場合、なかには行くのをためらう子もいると思う。そういった援助金のような制度は田原本町にはないのか。

(教育長)

田原本町は、特に中学校の部活動に非常に力を入れている。今年も近畿大会、全国大会などに出ている。個人、団体に関わらず町からの支援はないのかという質問だが、記録や結果についてはこちらに入ってくるので、表敬訪問という形で生徒及び保護者、あるいは顧問の先生に来てもらい、その場で町長からわずかながら応援金として直接手渡している。

(若林委員)

金額はどれくらいか。

(教育長)

1万円程度である。

(若林委員)

個人に対してなのか、団体に対してなのか。

(教育長)

基本的には個人に対して1万円程度である。ただ、全国大会、近畿大会の出場者については、旅費と宿泊費を町から出している。

(小松原委員長)

その他にどうか。では次の議案にうつる。

議案第5号、「第4次総合計画後期基本計画及び第2期総合戦略骨子案について」事務局から説明を求める。

(事務局)

資料5：第4次総合計画後期基本計画骨子案 - 前期基本計画からの主な変更点 -
資料5別紙：第4次総合計画後期基本計画骨子案について説明

(小松原委員長)

意見、質問はあるか。

後期基本計画骨子案のポイントを資料にまとめてもらった。新旧の比較については施策ごとに一覧表で提示されている。また第2期の総合戦略についても、別紙で現行と見直しについて比較対照できるように提示されている。

第2期総合戦略骨子案に関係人口という言葉が出てきたが、これまでの考え方からすると、関係人口というのは1回限りの来訪でなくリピーターになり得るということ。更にいえば定住・定着につながるきっかけになるようにフォローアップしていくための、町としての考えを出していきたいという説明と受け取ったのだがそう考えてよいか。

(事務局)

今後は関係人口を作り出していく事業としてふるさと応援寄附はあると思うが、その他に新たに事業を作り出していきたいと考えている。

(小松原委員長)

ふるさと応援寄附だけでなく、町で企画してクラウド的な寄附の募集をしたいという考えか。積極的に企画的に寄附を募るということか。

(町長公室参事)

寄附を募りたいというのものもあるし、関係人口というのは単に来てもらうだけではなく住んでもらう方でもない。来てもらったうえで、地元に戻ってからでも何らかの形で町に関わりをもってもらい、例えば、パブリックコメントでコメントしてもらい、オンラインでふるさと納税に寄附してもらってもいい。地域に何かしら影響を及ぼしてもらいような、例えば、たまに来て空き家の改修を手伝ってもらってもいい。経済的、もしくは地域のまちづくりにインパクトを与えてくれる人を増やしていくような事業をしていくべきだと考えている。

(小松原委員長)

20年程前にも全国的にそういった事業を行っていたのを覚えている。形を変えてしっかりとやってみようという全国的な話。新しい形で進行してほしい。

(若林委員)

自治会の加入率が計画より遅れているということだが、ところが商工会の加入率は横ばいで青年部などはまだ増加している。どういう魅力があるかという説明はどのようにしているのか。自身の自治会に引っ越しして来られる方などに紹介したいと思う。自治会に入るメリットをどのように説明しているか聞きたい。そうでないと26自治会で1世帯5万円負担するというニュースが流れたら入るメリットを感じられないと思う。

(総務部長)

自治会というのはコミュニティということで、防災に関しても地域で共助の関係から守っていくべきだと考える。しかしミニ開発等も増え、その中で自治会に加入したくないという方もおられる。そういった方については開発業者を通じてできる限り入っていただくように推奨している。ただ最近では、自治会側から大きくなりすぎたということで、ミニ開発の方に入ってほしくないという事例も聞いている。そういったことについては町から加入していただくようお願いしている。また、約30戸で自治会が新しく設立することも可能であるため、色々な手法により自治会の加入の促進をしてきたい。

(若林委員)

もう少し具体的に若い方にPRできるようなものがほしい。

(総務部長)

自治会活動なので、自治会の中で色々なイベントをする団体もあれば何もしていないところもある。ただ、何かあったときの助け合いが非常に重要と考えてい

る。自主防災組織についても田原本町 100 の自治会のうち 78 で新しく組織がつくられた。これが全自治体につくられるように働きかけもしているところである。

(大西委員)

資料 6 の 1 ページに総合戦略の進捗状況の説明があったが、人口の社会増減が平成 29 年度より 50 人増加となっている点が興味深い。日本は今後人口減少していくなかで、増加した要因は何か。先程の新規就農などと関係あるのか。計画資料を見ていると令和元年度にプラスに転じているが、直近値も 91 人、これを増加とみていいのか。そのあたりを詳しく聞きたい。

(小松原委員長)

資料 6 か。

(大西委員)

資料 6、1 ページ基本目標 2 のところで数値目標の社会増減数が 50 人増加したということ。

(事務局)

ここ数年プラスの数字が出ているが、人口ビジョンをつくった時の目標の推計が下がるということだったのでその平均値でマイナス目標になっている。直近値でプラスに転じている理由としては一概に分析が難しいところであるが、子育て世代の施策に力を入れていることやミニ開発が顕著に行われ戸建てが増えてきていることも要因ではないかと分析している。

3. 次回開催日程

(小松原委員長)

次回開催日程について事務局から説明を求める。

(事務局)

次回開催日程について説明。

(小松原委員長)

全ての議題が終了した。事務局に進行を返す。

4. 閉会